

「海岸御台場御筒海岸炮台書」より 嘉永元年（1848年）

七戸浦

泊村

一、中山崎北手之方

約3,75kg たま
一、老貫目（玉）木炮

右老度打払候事



北之手大砲場 地理院 MSI Maps

右御台場丑向也 西の方弁天坂老丁程、御台場高サ五丈余、下たに

黒岩多く波打揚げ荒し 北に志利屋阿部崎見得、東西江五十間、南北江

老丁程之平地也 皆中山崎と云 此処に三ヶ所有之故、北之手・中程・

南之手と云 土手左右長サ六七間、高サ四尺、厚サ五尺、柵左右

折曲り二間程、尤能御台場なり



木砲の想像図



柵折曲りの想像図



中山崎と館上大砲場 「北奥道中図」村史より引用

一、同所中程

約1,125kg
一、三百目唐銅筒（からかねつ）

但割菱御紋付

右老発打払候事



割（武田）菱の家紋



中程大砲場の土塁

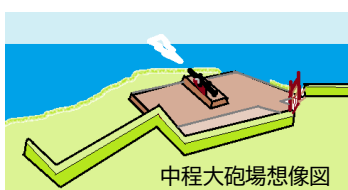
右御台場は北之手より五拾間程南にて卯辰之向也 左右土手二十間づ

つ、柵折曲り老間半づつ、御筒据台土手 築出しなり 尤長サ六尺、

横五尺位也 其上に土俵を積候事、惣高サ北之手に同じ



「北郡泊村中山崎大砲場測量の図」
郷土館所蔵写真より掲載



中程大砲場想像図

一、同所南手

約3,75kg
一、老貫目唐銅筒

右老発打払候事

右御台場 辰の向也 中程之統四十間程南 左右土手五六間づ

つ、外御拵方模様等も中程に同じ 泊村迄四五丁、館の上御台

場迄三四丁程、巳の方に八戸の山見得る 但往還より

※今回は、館の上砲台場を見学します！

館の上大砲場



御筒雨覆有之 西南江沓丁程を下り泊村なり

同断
おなじ

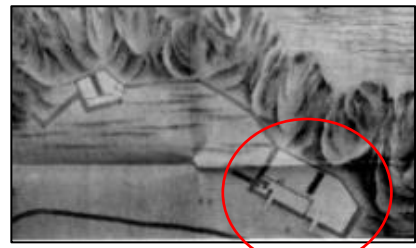
手左右の方丸く、右之方一文字五六間づつ、柵土手共御拵方前

右御台場 辰の向也 高サ八九丈、五間に三間程之平地也 土

右は沓発打払候事

一、三百目唐銅筒

二、泊村館の上



「北郡泊村中山崎大砲場測量の図」村史上巻Ⅱより引用

約36m
二十間ほど東の方なり



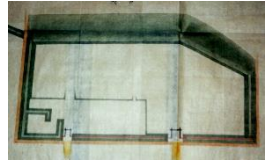
館の上御番所地形の図



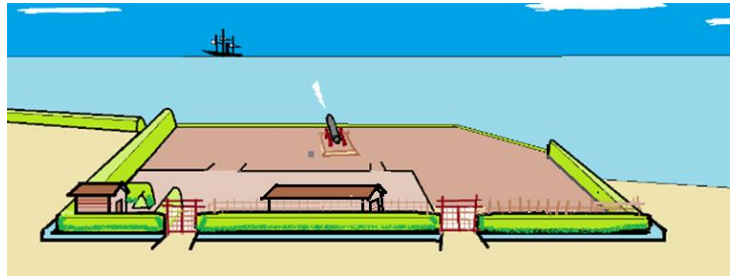
館の上御番所(御台場)から中山崎を望む



南手お台場より太平洋を望む



「北郡泊村中山崎大砲場測量の図」



「北郡泊村中山崎大砲場測量の図より、南手の御台場の想像図

一、泊村六角

一、七百目唐銅筒

専勝 沓挺

右沓発打払候事

右御台場辰巳の向也 泊村より二丁程南之

岡に高サ五丈程、御拵方館の上に同じ

村方通候便宜敷事

一、尾駸村鷺森

一、五百目唐銅筒

必勝 沓挺

右沓発打払候事

右御台場卯辰之向也 前に平場之崎十間四方位有之、高サ四五丈、西

北野続にて武者溜、火薬師働共自由なり 尾駸之川尻老部川の溢水と

落合沼の如し 五丁程向に波際也 尤波荒く砂浜にて遠浅也 御台

場御拵方前同断



鷺森お台場 「北奥道中図」村史より引用



鷺森お台場跡と想像図 国土地理院 HP より引用



六角お台場跡から泊漁港を望む



六角お台場跡、位置と想像図 国土地理院 HP より引用

一、平沼浜下り戸北手之方

約1,125kg
一、三百目唐銅筒

尅挺

但雲竜形割菱御紋付、四つ車台付なり 長サ四尺余にて能き御筒也

右二発打払候事

右御台場卯辰之向、高サ三丈程下たより尾駁川（高瀬川）迄平地二丁

程、夫より川を隔て又洲あり 御台場より波打際迄式百九拾間

一、同所中程

約1,125kg
一、三百目唐銅筒

右尅発打払候事

右御台場卯辰之間なり 御台場御拵方模様目 当方角とも北手に

同じ

一、同所南手

約3,75kg
一、尅貫目木炮

尅挺

右尅発打払候事

右御台場方角模様并御拵方共中程に同じ 少し低き方也 中程より

南江尅丁程隔て納屋二軒有之 右三ヶ所平沼沖江之御備也 尤模様至て宜敷御場所に候得共、沖江遠き御場所也 但此辺遠浅のよし



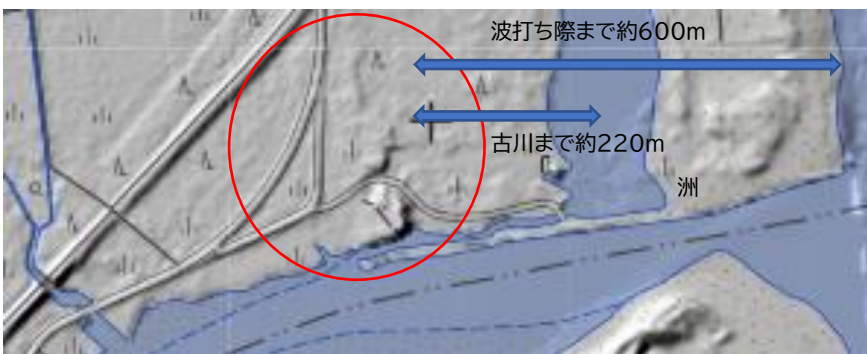
平沼浜お台場中程



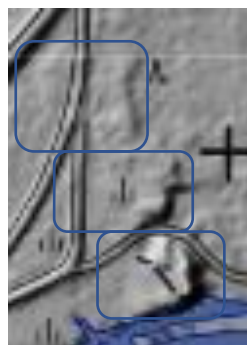
平沼浜お台場南手



平沼浜下り戸お台場(ハマ折戸大砲場)の図 「北奥道中図」村史より引用



平沼浜下り戸お台場の位置 地理院 MSI Maps より引用



3つのお台場と流された陣屋と納屋2軒
地理院 MSI Maps と「北奥道中図」より引用